

第2回現地調査について

社叢学会理事
糸谷 正俊

社叢学会では、復興を手がける社叢の選定と、地元での協力体制構築のために、藺田稔副理事長、糸谷正俊理事を平成24年1月17日（火）～19日の3日間、岩手県・宮城県・福島県に派遣した。また、8月の土壌化学分析調査で追跡調査が必要とされた社叢の土壌サンプル採取のために、武田一宏氏（大阪府立大学工業高等専門学校）が同行した。以下は、調査の概要である

1. 調査スケジュール

1月17日	岩手県神社庁・宮城県神社庁で4月に実施予定のアンケート調査について打ち合わせ 名取市、岩沼市社叢2カ所（下増田神社・稲荷社）調査
1月18日	仙台市、名取市の社叢5カ所（天照皇大神宮・狐塚・八幡社・山王宮・日和山）調査 仙台市復興本部ヒアリング 山元町八重垣神社社叢調査・ヒアリング
1月19日	宮城県神社庁 岩沼市の社叢2カ所（竹駒神社・金蛇神社）調査

2. 参加者

藺田 稔・糸谷正俊・武田一宏・近藤寛（現地協力者）

3. 調査報告

①アンケート調査について

- ・3県の神社庁で、4月にも各被災神社に対して実施を計画しているアンケート調査について相談
- ・岩手県・宮城県では協力を得ることができ、傘下の神社名簿を得た
- ・福島県については法人社が3,000あり、兼務社は把握できない。アンケート票の郵送は現実的ではないので、めぼしい神社について神社庁から配布する
- ・いずれにせよ、被災神社は氏子が四散したところも多く、社殿の復興や祭・儀式の継承などの問題が山積しており、アンケートの依頼文には充分気を配って欲しい
- ・神社本庁の後押しがあればさらに望ましい

②神社本庁の支援事業について

- ・本庁支援事業として、被災神社に伊勢神宮林の材を使った仮社殿整備に対して100万円を助成することにしており、その準備に着手した
- ・被災社の負担がいらなため、社殿復興に貢献すると期待している
- ・募集はこれからで、今後20～30社建設したい
- ・八重垣神社（山元町）が再建第1号で鹿島建設が請け負う予定

③現地調査関係調査結果

- ・ 土壌サンプルは採取完了、調査社叢は痛みが激しく、マツなどの枯死が目立つ
- ・ 狐塚のマツ高木に枯死が4本、山王宮のスギも枯死が多い
- ・ 海岸砂防林ではマツの枯死木の伐採が続けられている
- ・ 八重垣神社もマツ高木の枯死が2本あった

④狐塚について

- ・ 狐塚周辺は災害危険地区指定で、住むことは認められず、農地として再生される
- ・ 農業振興地域、農用地指定地で、国直轄の農地復旧事業として大規模圃場整備に着手、現在除塩作業（表土のはぎ取り）を進めている
- ・ 復興計画は全体の基本計画を定め、住民へのアンケート実施中。賛成が7割あり、計画通り進む予定
- ・ 狐塚周辺は圃場整備対象となり、今後土地所有者の意向を聞いて個別設計するので、狐塚が無くなることも予想される
- ・ あくまで、所有者の意向、地域の意向が優先されるが、国事業なので市の意向がどこまで通じるかは疑問
- ・ 新年度8月に圃場整備の基本計画が出来、その後、同意作業に入る
- ・ 社叢学会が、所有者、荒浜住民などに働きかけ、存置の運動をしないと、無くなる恐れもある

⑤山元町八重垣神社の社叢調査および藤波宮司ヒアリング

- ・ 過去伐採したときの年輪調査では300年生以上と目されるマツもあった。現在もマツの高木林が一部残っている
- ・ スギの中木は枯死しており、中低木も枯れたものが多い

〈宮司ヒアリング〉

- ・ サクラ類もダメ、ということだったが、周辺の野菜は元気に育っているなので塩害は少ないのではないか
- ・ 危険地区指定地であるが神社の再建は法的に可能（社務所も可能）で、地域の拠り所として、神社再建が地域復興のバネになる
- ・ 兼務社が6あり、合わせて7社で協力して再建を進めたい。地域の連帯もある
- ・ 仮社殿の建設も大事だが、自分としては森の再生を図るのが先と思う
- ・ 社叢学会と協働で是非社叢の保全、育成活動に取り組みたい

4. 調査を終えて

- ・ 修復対象社叢としては狐塚、八重垣神社を手始めに、山祇神社（今回未調査で県神社庁でも情報が少ない）、小槌神社、天照御祖神社（陸前高田市）、山王宮、今泉天満宮などが候補
- ・ 今年度中に狐塚の土壌改良、八重垣神社の土壌改良などに取り組む必要がある
- ・ 関東在住の社叢学会理事で植物の専門家や社叢インストラクターの協力が必要。また、未確認ではあるが関西の造園・園芸企業の協力を得られる可能性があり、協力内容についてつめる必要がある